

島根地域貢献推進奨励金事業

アドベンチャー・カウンセリングによる こどもの居場所づくり

教員：川中淳子

学生：

人間文化学部保育教育学科

4年：小井結香子、鶴原悠

3年：安藤楓美、井上佳音、片地ことの、須田せりか、平田萌香

2年：越後海翔

活動の背景

- 不登校児童生徒数は増加の一途
- 多くの子ども達が一人遊びや学習塾などに多くの時間を費やし、仲間と共に協力することのできる時間は減少
- 子ども達が仲間との豊かな交流を持ち、居場所を感じるためにはどのようにすれば良いのかということが本活動の出発点である

アドベンチャー・カウンセリング

- この問題の解決のためには様々な体験活動に取り組んだり自然に触れたりすることが有効である
- 本活動では、体験活動や野外活動をアドベンチャーと総称し、心に働きかける活動をカウンセリングと呼ぶ

目的

- アドベンチャー・カウンセリングで子どもの孤立を防ぎ、他者との心の絆を紡ぐことができる社会の構築を目的とする
- アドベンチャー・カウンセリング普及を目指す

会場：ほっ♥To いっぽ Lab

日時：R7 7月27日(日)

START 10:00 ~

茶話会

ほっ
とする

夏野菜で作るカレーと

について
様、500円のご協力をお願いいたします。



ほっ♥To いっぽ Lab 夏野菜カレー作り イベント参加

- 令和7年7月27日
- 畑で夏野菜を収穫し、その野菜でカレーを作り食べる
- 付き添いの保護者は、お互いのつながりを作ったり、カレー作りを手伝ったりする

ほっ♥Toいっぽ°Lab

主催者へのインタビュー

体験活動への思い

心の居場所＝みんなで作り上げる場所



子どもの表情が変化する



子どもは前向きに変化する



子どもが社会に一步踏み出そうという自信になる

大学生対象の活動概要

- **日程**：令和7年10月19日
- **大学生参加者**：計8名
 - 実施担当 1 名、補助スタッフ1名、参加者6名
- **場所**：島根県立大学松江キャンパスカメラアホール
- **主な内容**：
 - ASE（Action Socialization Experience 社会性をはぐくむ体験活動）
 - 野外料理の基礎

活動内容

1. みんなで楽しくゲーム
 - フリスビーチャレンジ
 - 英語でお題を伝えよう
 - 割りばしダーツチャレンジ
 - ジェスチャーゲーム
2. ご飯作り
3. 振り返り

ASE

Action Socialization Experience（社会性をはぐくむ体験活動）

集団でメンバー同士が協力しながら課題を解決していくプログラムであり、協調性やコミュニケーション能力、課題解決能力、創造性といった様々な能力の育成にアプローチすることが可能であり様々な目的に合わせた多様な活用法がある（徳田ほか 2018）。

ASE



実施のポイント

- **参加者主体**の活動になることが大切
- 活動は**参加者のレベル**にわせて設定し、 非日常的かつ、協働的に行う活動を考える。
- 各活動の**ゴール**
 - 各個人のゴールと、チームとしてのゴールの両方が必要
 - 各個人のゴールで自分の力に向きあい、チームとしてのゴールにより協力の姿勢が醸成されるのではないか
- ゴールは、**チャレンジバイチョイス**の考え方で決められることが大切

活動における言語化について

- **横のつながりにおける言語化**

- 感情の共感が生まれ、仲間意識が芽生え、参加者同士のコミュニケーションの促進される

- **縦のつながりにおける言語化**

- 縦のつながりは困難だが、実施者の意図的な支援により、つながりを持たせることで、チーム全体の目標に向かうモチベーションの向上に繋がる

チャレンジ バイ チョイス

活動への挑戦を自分で選ぶ考え方のこと。強制ではなく、自己選択により一歩踏み出すことで、達成感や自己効力感を育む。

例: 高所アクティビティでは、「どこまで挑戦するか」は参加者自身が決める。

Project Adventure Japan <https://www.pajapan.com/paprogram/contact/>
(2026年1月20日) より抜粋

大学生へのインタビューより

- 参加者は短期時間のうちに協力的になっていく
- 自分らしくいることができる
- 大学では新入生を迎えたときの、新入生の緊張をほぐせるのではないか
- 小学校、中学校、高校では、学級への不適應感を感じている子どもたちへの実施が有効ではないか

今後の展望

- 全国の実教育現場での普及

人に関心があればだれでも実施可能な活動であるので、多くの人に知っていただき、普及させたい。

- 島根の自然の活用

自然豊かな島根であっても子どもたちが日常の中で触れることは少ない。豊かな自然に恵まれた島根県でこそ、自然を有効に教育に取り入れることが可能。